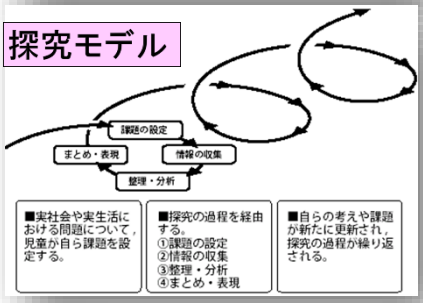
探 究



少し前の話になります。

6 月 12 日（水）、校内研究の今年度最初の研究授業を行いました。今年度の研究主題は、「自分の言葉で表現できる子の育成をめざして」です。

授業者は、研究主任の吉川先生です。研究主任自ら、トップバッターとして魂の入った授業を展開しました。5 年生の総合的な学習の時間から、「三宅島のごみの課題を見つけよう」という小単元の学習でした。

「いかに課題を自分事と捉えさせるか」高学年分科会では、頭を悩ませました。実態として、話し合いには抵抗なく安心して話し合える雰囲気はできている、一方で、自分の考えをもつことはできるが、その考えを自分の言葉で表現できることが苦手である児童が多い。さら児童に主体性をもたせるには、どんな手だてが必要だろうか。高学年分科会の、解決すべき課題でした。

本単元では、三宅島のごみの焼却灰を最終処分にしている大島・八丈島最終処分場の埋め立て期間やクリーンセンターでの事故などを資料として提示すれば、自分たちの生活に密接に関わるより身近な問題として捉えられるようになるだろうと考え、本時の授業を構成しました。

今回の校内研究へ、内地より講師の先生をお招きしてご指導をいただきました。八王子市立清水小学校　校長　荒井　雄一先生です。荒井先生は、小生が 15 年前に同じ職場でお世話になった先輩の先生です。当時、校内研究で総合的な学習の時間を研究領域として、荒井先生と一緒に学び、たくさん教わった先生です。さらに、平成 4 年から 3 年間三宅島の教員として赴任していた経歴もあり、校内研究で総合的な学習の時間の授業をする際には、ぜひお招きしたかった先生です。

荒井先生を島内のご案内をしていた際に、偶然、当時の荒井先生の教え子に会いました。1 年生だった子が、30 年の時を経て大きく立派になり、久しぶりのご対面に大変に喜んでいらっしゃいました。

荒井先生からは、そもそも「探究的な学習」とは、何か。本授業の学習展開に合わせて、具体的な子供たちの姿を通して、示唆していただきました。「多面的・多角的に課題を考え、自分事の探究課題を設定できたか」という視点について、自分事の課題ではなく、単なるごみ問題としての課題に終わっていないか。一人一人の未来の三宅島のイメージや願いが学級全体の思いや目指すテーマとして共有されているか、など授業の核心を突いていただきました。ご指導いただいたことを、今後の授業改善につなげていく所存です。 荒井先生、ご指導をありがとうございました。

「たんきゅう　ベリーマッチ」